



2005年10月26日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社  
代表者 代表取締役社長 竹中 登一  
コード番号 4503  
(URL <http://www.astellas.com/jp>)  
東証・大証・名証(各第一部)、札幌  
決算期 3月  
問い合わせ先 広報部長 田中 昭弘  
Tel:(03)3244-3201

## 2006年3月期中間期及び通期業績予想修正のお知らせ

当社は本日開催された取締役会において、本年5月17日の決算発表日に公表しました2006年3月期(2005年4月1日~2006年3月31日)の中間期及び通期の業績予想を、下記の通り修正することを決定しましたので、お知らせします。

〔記〕

### 1. 2006年3月期中間期 業績予想の修正

	単位		売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	百万円	個別	281,000	64,000	66,000	38,000
		連結	423,000	94,000	97,000	49,000
今回修正予想 (B)	百万円	個別	287,400	80,800	81,300	51,900
		連結	426,700	117,100	122,000	67,300
増減額 (B-A)	百万円	個別	+6,400	+16,800	+15,300	+13,900
		連結	+3,700	+23,100	+25,000	+18,300
増減率	%	個別	+2.3	+26.3	+23.2	+36.6
		連結	+0.9	+24.6	+25.8	+37.3

### 中間期業績予想修正の理由

連結におきましては、欧州及び米国での免疫抑制剤「プログラフ」、欧州での前立腺肥大症の排尿障害改善剤「オムニック」(「オムニック OCAS」を含む。日本での製品名「ハルナール」)、日本での持続性アンジオテンシン II 受容体拮抗剤「ミカルディス」、また経口用セフェム系製剤「セフゾン」の輸出などが期初予想を上回って推移しました。また、期初想定よりも米国ドルに対して円安で推移したことも売上高の増加に寄与しました。一方、米国・欧州でアトピー性皮膚炎治療剤「プロトピック」、米国での頻尿・尿失禁治療剤「VESIcare」および「ハルナール」のバルク・ロイヤリティ収入などが期初予想を下回ったほか、加工費売上の会計処理方法変更による売上高の減少がありましたが、全体として、連結売上高は期初予想を上回る見込みです。(主要品目の期初予想と中間期見通しは添付表参照)

売上高の増加に加え、製品構成の変化ならびに原価低減努力などによる原価率の改善によって売上総利益が期初想定よりも増加したこと、販売費及び一般管理費（含む研究開発費）の発生が下期にずれ込む見込みであることから、営業利益、経常利益ならびに中間純利益も期初予想を上回る見込みです。

個別におきましては、国内において「ミカルディス」などが好調に推移するとともに、「セフゾン」の輸出が期初予想を上回り好調に推移しました。経口抗菌剤「ケテック」の不振や加工費売上の会計処理方法変更による売上高の減少もありましたが、全体として個別の売上高は、期初予想を上回る見込みです。

売上高の増加ならびに原価低減努力などによる売上総利益の増加、販売費及び一般管理費（含む研究開発費）の発生が下期にずれ込む見込みであることから、営業利益、経常利益ならびに中間純利益も期初予想を上回る見込みです。

## 2. 2006年3月期通期 業績予想の修正

	単位		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円	個別	588,000	132,000	166,000	110,000
		連結	885,000	195,000	199,000	104,000
今回修正予想 (B)	百万円	個別	585,000	137,000	172,000	112,000
		連結	885,000	205,000	211,000	117,000
増減額 (B - A)	百万円	個別	3,000	+5,000	+6,000	+2,000
		連結	0	+10,000	+12,000	+13,000
増減率	%	個別	0.5	+3.8	+3.6	+1.8
		連結	0	+5.1	+6.0	+12.5

### 通期業績予想修正の理由

連結におきましては、期初想定より米国ドルに対して円安で推移する見込みであることもあり、「プログラフ」および「セフゾン」(主に輸出)が期初予想を上回る見込みです。また、国内では「ミカルディス」が期初予想を上回る見込みです(3品目合計で約160億円増)。一方、「プロトピック」に加え、「ハルナール」がバルク・ロイヤリティ収入の減少の影響により期初公表を下回る見込みです(両品目で約100億円減)。さらに、加工費の会計処理方法の変更による売上高の減少(約70億円)がありますが、全体として、連結売上高は期初予想と同じとなる見込みです。

売上高の見通しは期初予想と同じですが、製品構成の変化ならびに原価低減努力などによる原価率の改善により売上総利益が期初想定より増加する見込みです。販売費及び一般管理費(含む研究開発費)は、経費の発生が下期にずれ込むことから、通期ではほぼ期初予想を据え置いています。主として売上総利益が増加する見込みであることから、営業利益、経常利益ならびに当期純利益も期初予想を上回る見込みです。

個別におきましては、「ミカルデイス」および「セフゾン」の輸出が好調に推移する見込みですが、「ケテック」の減少や加工費の会計処理方法の変更による売上高の減少があるため、個別の売上高は、期初予想を若干下回る見込みです。

売上高は若干減少する見通しですが、原価低減努力などによる売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費(含む研究開発費)も期初予想より減少する見込みであることから、営業利益、経常利益ならびに当期純利益も期初予想を上回る見込みです。

〔ご参考〕

前中間期及び通期の実績

(単位：百万円)

前中間期(2004年4月1日～2004年9月30日)				
	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
個別	308,747	75,247	97,049	59,227
連結	424,705	98,614	100,748	47,351

前期(2004年4月1日～2005年3月31日)				
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
個別	625,721	148,275	169,551	74,866
連結	862,011	192,239	194,235	59,532

旧山之内製薬及び旧藤沢薬品工業の前中間期及び通期実績を単純合算したものです。

以上

(添付)

主要品目の中間期売上の期初予想と修正見通し

品目	中間期売上 期初予想 (2005年5月17日公表)	中間期売上 修正見通し
ハルナール	682 億円	690 億円
(内 国内)	(234 億円)	(238 億円)
(内 欧州)	(223 億円)	(252 億円)
(内 バルク・ロイヤリティ)	(203 億円)	(171 億円)
プログラフ	650 億円	696 億円
(内 北米)	(336 億円)	(352 億円)
(内 欧州)	(195 億円)	(213 億円)
プロトピック	115 億円	65 億円
(内 北米)	(69 億円)	(27 億円)
(内 欧州)	(29 億円)	(23 億円)
ファンガード/マイカミン	85 億円	77 億円
(内 国内)	(74 億円)	(73 億円)
(内 北米)	(11 億円)	(4 億円)
Vesicare	60 億円	50 億円
(内 北米)	(32 億円)	(22 億円)
(内 欧州)	(28 億円)	(28 億円)
ミカルディス	145 億円	165 億円
セフゾン	133 億円	153 億円
(内 海外 輸出外部売上)	(42 億円)	(67 億円)